

新宮山彦ぐるーぶ第2002回
持経宿・平治宿の巡回整備(迎春準備など)

◇実施日：2018年12月09日(日) 曇り時々晴
◇参加者：川島 功、沖崎吉信、濱野兼吉、大江加予子、
生熊敏男・千満子、畑林清子、橋本梓、高階美根子、
山川治雄・自知、梶野照雄。 12名。

新宮組は川島車に畑林、生熊夫妻、沖崎車に橋本、大江、濱野、
が同乗し、午前7時少し前に出発。

今朝は今冬一番の冷え込み。九重を過ぎた国道169号線の温
度標識は4℃。生熊さんによると那智勝浦・新宮道で4℃。高階
さんは飛鳥の169号線で1℃、伯母峰隧道を越えた梶野氏は零
下1℃であったとのこと。

池原公園駐車場で、紀北町海山の高階、熊野市・山川親子、堺
市・梶野さんが先着していて、沖崎事務局長より本日の行動につ
いての指示がある。ここから池郷林道ゲート迄は梶野、沖崎、山
川さんの車(軽トラ)で出発。途中林道には落石があり、その都度
車から降りて落石を拾って林道脇に除去しながらゲートへ。

ゲートから持経宿に向け林道(約1km)を徒歩にて進む。ゲート
付近の林道の荒れようは尋常でなく、支谷から台風による豪雨が
林道路面に流れ込み、土砂が流れて歩くことさえ大変な状態であ
る。途中の林道も路肩が少し崩落したり、山側の岩が剥げ落ちた
りと台風の被害が至る所に現れている。

日陰には、うっすら白く雪が残っていた。歩くこと1時間あま
りで持経宿に着く。各小屋の注連飾り等を仕分けする間に、雨水
槽を空にして、トユからの雨水が入らないようにトユを外すと共
に雨水槽の底栓を開けて水を抜く、これは凍結して水槽が割れな
いようにする処置である。表面に1〜3mmの氷が張っていた。



ゲート上の荒れた林道



行仙宿にうっすら雪



迎春飾り等の仕分け

平治宿・千年檜への注連飾りや御神酒、カレンダー、トイレッ
トパーパー等をそれぞれ手分けしてザックや手に持って出発。
山川さん親子は千年檜への注連縄張り替えに使う長梯子を運ぶ。



長梯子を運ぶ



千年檜の注連縄を外す



いつものように中又尾根手前の山頂で休憩となるが、中又尾根
への最後の登り坂に樺の倒木があり、チェンソーで梶野、山川さ
んが倒木の切除にかかる。この木は大人が一抱えするほどの太さ
で、奥駆道を塞いでいる。チェンソーで上から横から切り、重み
がかかる事から下から切ったが、締まってチェンソーの刃が挟ま

り、楔を打ち込み隙間を空ける作業をされる。時間がかかりそうなので、作業の様子を写真に撮り、梶野・山川・生熊さんに任せ、あとの人は平治宿へと先行する。



奥駈道を塞ぐ(跨いで通行可) 梅の大倒木切除

沖崎さんは赤テープで奥駈道の傍らの木々にマーキングをしながら進む。私が平治宿に着くと沖崎さんはトイレのドラム缶に張った氷を砕いている。張っている氷の厚さは約5cm、山川自知君は洗い桶で、私は片手鍋で溜まった水をくみ出し、沖崎、山川、濱野の3人で小屋の軒下まで運ぶ。この間に女性陣は、小屋内を掃除し、カーペットを敷いて昼食の準備にかかる。



平治宿便所水洗用水のドラム缶

平治宿水場の水槽底浚え

私と沖崎、山川親子、梶野、生熊敏男さんで水場に降りる。水場の貯水槽には、氷が張り、落葉、泥、石が流れ込んでいて、とりあえず水や落葉、土砂を取り除く。梶野さんは泥が入ったせいで水が腐り悪臭が出ているという。いつもだとシーボルトミミズが入っているが今回は入っていない。貯水槽はきれいになったが、夏に貯水槽の周りにセメントを張る修復をしたが、一部水で流失して凹んでいて、少量では水槽に流れず再修復する必要がある。生熊さんは、貯水槽にグレーチングを張るといっているので、梶野さんと相談し計測している。私は素人でさっぱりだが、山彦テクノの皆さんは佃製作所にも勝るとも劣らない技術屋である。あとはまかして平治宿小屋に12時前に戻る。小屋ではストーブが焚かれ暖かくなった中で昼食。



水槽の底浚え後



ストーブを焚いて昼食



本日の参加者

昼食後川島さんお手製の紫芋の羊羹や蜜柑バームクーヘンやお菓子の差し入れ、コーヒーが入り、和やかなひとときが終わる。沖崎さんは志納箱から支納金を回収し、私は川島さんの芋羊羹を土産にいただく。全員揃って平治宿小屋の玄関で記念撮影をして持経宿へと戻る。帰路も沖崎さんは、標識の赤テープを付けられる。梅倒木を処理された場所では、チェーンソー刃が挟まれて残っている。木が太

くてチェーンソー刃が挟まり処理しきれなくて、次の土曜日に再度梶野・山川さんで切除処理に来ることになった。

先着した山川親子・川島・橋本さんで千年檜に新注連縄を張る。千年檜に帰ってくるともう注連縄が張り替えられ、不動明王を祀った千年檜お堂にも、お供えのお菓子、御神酒、深山榊も新しく供えられ、生熊敏男導師の勤行で般若心経を唱え、新年を迎える準備を終えて持経宿に戻った。



千年檜・新注連縄に張替え



千年檜祠に迎春飾り

千年檜・祠前で撮影

千年檜を後に

持経宿では、宿内の掃除や鏡餅・御神酒を新しく供え、カレン

ダーの取替え、志納金の回収、不動堂のお供えも新しくし、小屋周辺に溜まった落葉は、発電機を動作させブロワーで吹き飛ばして掃除し、玄關上に注連縄を張り、すっかり迎春準備ができた。持経宿の金剛童子も拭き清められ、傍らにあったサイの角だか象牙だかも見違えるように綺麗になった。又、薪を玄關脇に運ぶ。



持経宿内の正月飾り

持経宿の迎春準備を終える

山川親子・生熊敏男さんは、一足早く下山。持経宿から下山前に写真を撮り、池郷林道ゲートへ歩いて帰路についた。

私にとって一ヶ月ぶりの山行であった。体重が増え身体が重く、歩く速さも随分と遅くなり、皆さんに迷惑をかけないか、膝は大丈夫なのかと不安であったが、何とか2万歩を超えて歩き通すことができたことに安心した。夏山で転倒し大腿をしこたま打ち付け、腫れが在りクロニエの状態が続いた。全く自信をなくしていたが、すこしはまだ大丈夫と思えてきた。今回は楽しい山行となった。ゲートからの林道の早期復旧を望むところであるが……。

行動タイム

新宮7:00→8:10池原公園P8:20→8:42池郷林道ゲート8:45→10:05持経宿10:15→11:10平治宿→11:55(昼食)→平治宿12:45→13:30千年檜13:45→13:50持経宿14:30→15:40池郷林道ゲート15:45→16:05池原公園P・解散。(記:濱野、写真:梶野・川島)